

《練習日程》(2006年11月～2007年2月)

月/日		会 場	時 間	備 考
11月	25日(土)	旭丘公民館	Pm7時～9時	
12月	2日(土)	//	//	Pm6時～7時:楽典講座
	9日(土)	//	//	
	16日(土)	//	//	Pm6時～7時:楽典講座
1月	13日(土)	//	//	
	20日(土)	//	//	
	27日(土)	勤労青少年ホーム軽音楽室1	//	
2月	4日(日)	中央公民館視聴覚教室	//	
	10日(土)	旭丘公民館	//	
	17日(土)	//	//	
	24日(土)	//	//	

1月6日(土) 新年会の予定 (詳細は後日) ()C∞△v(〜*)

★楽典講座開催のお知らせ

中断しておりました、石川ひとみ先生による「楽典講座」を再開します。

新たな練習曲(新曲)に対応するように、曲の理解、歌う上での注意事項など、わかりやすく解説・指導をしていただきます。是非、皆さんの積極的な参加をお願いします。

※以下の日程で、年内2回を予定し実施します。

○12月 2日(土) 練習日 18:00～19:00

○12月16日(土) 練習日 18:00～19:00

♪尾張旭市民合唱祭の感想♪ ～ソプラノ中澤さんより～

一言でいうなら「良かったあ～」です。

1曲目「しあわせよ あんまり早くくるな」と歌い出しを聞いて、ソック!としました。

優しく「しあわせよ」と語りかけてくるようでした。

いつも他パートの支えであるベースが33小節目からの主旋律を嬉々として歌っているのが印象的でした。

モーツァルトの純子さんのソロ、素敵でした。

チカさんが「純子さんのソロは努力の賜物」って言っていました。見習いたいです。

やはり本番は暗譜をして、指揮者を見るようにしたほうがいいと思います。

客席から見ていると、神谷先生が体全体で歌を表現しているを感じます。

神谷先生の指揮を見て歌えばもっと歌が表現できます。



《イベント情報》

<詳細は中畑(ち)、もしくは松本(恵)まで>

◆ 長久手フィルハーモニー管弦楽団 第8回手定期演奏会

会場：長久手町文化の家 森のホール
11月19日(日) / 開演 14:30:
入場料 1,000円(当日)
演奏曲 チャイコフスキー 「交響曲第4番」
グリーク 「ピアノ協奏曲」
モーツァルト 「魔笛序曲」

指揮 吉住 典洋



◆ モーツァルト 「レクイエム」

11月29日(水) / 開演 18:00 (17:30 開場)

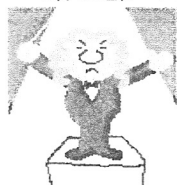
会場 愛知県芸術劇場コンサートホール

第1部 講演：海老沢 敏(日本モーツァルト研究所長)

第2部 「レクイエム」 指揮：大勝 秀也

管弦楽：名古屋音楽大学オーケストラ

合唱：名古屋音楽大学レクイエム合唱団



入場無料 (要整理券) 問合せ：音楽公演センター(tel.052-411-1148)

◆ 第42回メサイヤ演奏会

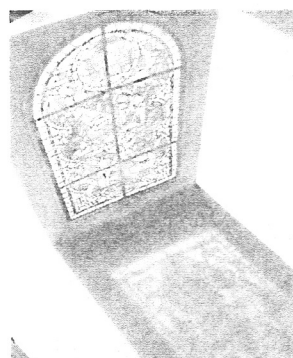
12月 3日(日) / 17:00 (16:30 開場)

会場 愛知県芸術劇場コンサートホール

指揮：ゲアノート・シュマルフス

管弦楽：名古屋フィルハーモニー交響楽団

合唱：ヘンデル協会



入場料 (S席) 4,000円 (A席) 3,000円 (B席) 2,000円

ホームページだより

★★★★ <http://www010.upp.so-net.ne.jp/asahi/> ★★★★★

「団員の広場」パスワード : asahimix

○ お知らせ

- * 「Infoseekのフォトアルバムのパスワードを来週より「asahikonsei」から記入しやすい「lalala」に変更します。
- * 「書き込み広場」への参加もお待ちしてます～ ♪♪
行かれた演奏会の感想などどんどん書き込んで下さいね。

《ご報告》

◎役員会からの報告です。

11/5 開催 下記項目について話し合いました。

- ・ 記念演奏会の決算報告→承認。技術関係アンケート集計状況・「ひとこと集」編集状況確認。
- ・ 尾張旭市民音楽祭の詳細確認。
- ・ 衣装について…新入団員分の単価設定、退団時の扱い等について検討→次回へ持ち越し

《創立20周年記念》第6回演奏会 記念誌「ひとこと集」について

先般「ひとこと集」完成予定が11月18日とご連絡しましたが、印刷状態がいまいちよくなく、現在業者さんと打ち合わせ中です。なんとか新年会までには間に合わせたいと（「こら〜っ！」by 恵美子）、いえ、今月中にはなんとか完成にこぎつけたいと思います。早くに原稿を出してくださった方々にはたいへん申し訳ないのですが、ご了承くださいまし。

なお、こういう状況なので、未だ感想文を出して下さってない方、まだ間に合います。そのあなたです。

その気があったら、がんばって書いて下さい。

～ 「ひとこと集」編集委員会（藤田） ～

☆紅葉の「海上の森」ハイキング☆

日時：11月23日（木） 雨天：11月26日（日）

9：30集合 15：00解散予定 集合：「海上の森」 駐車場

持物：お弁当・飲み物・敷物その他各自必要な物

コナラとアベマキを主役にした黄葉の雑木林は見事で、タカノツメの黄色が目立ち、ヤマザクラの紅葉、ネジキ、ナツハゼの紅葉なども見えます。

篠田池へ行く道の紅葉は素晴らしく、

タカノツメとイロハモミジの組み合わせは絶品です。

花では、ノコンギク、ヤクシソウなどが咲き、

色とりどりの木の実が目立ちます。

好天に恵まれる事を願っています。



長谷川紀夫

「写譜職人」

楽譜は、それ自体芸術作品である。これが私の信念だ。演奏会やスタジオでのレコーディングに明け暮れる音楽家には、見づらい楽譜に遭遇して、普通なら弾けるはずの曲がちゃんと弾けないと思ったり経験があるだろう。逆に、美しい楽譜のおかげで澄んだ音が出て、自在に歌える演奏ができることもあるはずだ。

♪ # ♪

技を盗む職人の世界
私は写譜職人。オーケストラやバンドの総譜を、楽器奏者たちが演奏できるようにパート譜に書き分けるのが仕事だ。黛敏郎さん、山本直純さん、宮川泰さんらが作ったばかりの作品から、モーツァルトなどクラシック音楽の編曲版、ポップスやジャズにいたるまで様々な曲のパート譜を手がけてきた。

この道に入ったきっかけは二十五年ほど前、武蔵野音楽大学を卒業し、バリトン歌手をなりわいにしてきた。ここには、この曲がちゃんと弾けない、主なる仕事は、曲の組録や録音、曲録音で、「題名のない音楽会」などのテレビ番組の出演やCM録音で多忙な



道具は写譜ペンと三角定規一本だけ

東京ハッスルコピーの門をたたき、職人見習いに登録してもらった。それはまさに職人の世界だった。基本は先輩の技を見て盗む。最高の師は先輩が作った楽譜だ。道具は専用の万年筆である写譜ペンと三角定規一本だけ。無我夢中で腕を磨いた。上達しなければ仕事が出来ないという理由



柳田 達郎

◇音楽の流れが見える、手書きパート譜の美学◇

写譜速く正しく美しく

ストラやバンドの総譜を、楽器奏者たちが演奏できるようにパート譜に書き分けるのが仕事だ。黛敏郎さん、山本直純さん、宮川泰さんらが作ったばかりの作品から、モーツァルトなどクラシック音楽の編曲版、ポップスやジャズにいたるまで様々な曲のパート譜を手がけてきた。

毎日を送っていた。現場では、できたばかりの曲や有名曲の編曲版を演奏することが多い。パート譜は手書きだ。一見きれいなのに妙に演奏しにくい楽譜もあれば、見ただけで音楽が頭の中

に流れ始めるような楽譜もある。その違いが、私の新たな好奇心を芽生えさせた。「作曲家が作った音楽とは別に、写譜自体に美の世界がある」。そう思った私は一九八九年、写譜を請け負う会社

もあつたが、修業を支えたのは美しい写譜をきわめたいとの一心だ。

♪ # ♪

一つの音符一筆書き
身につけた技術のいくつかを紹介しよう。まず、総譜を手にしたら全体を見渡し、音楽の流れを頭の中で描く。写譜というとひたすら書く姿が目

すつと引つ張り上げ、最後にはひげのような曲線を引く。一音符につき一秒未満だ。

スラーを引く時は、長さによって腕の支点を変え、滑らかな弧を描く。二分音符は四分音符よりほんの少し大ききしたほうが見やすくなる。同じ大きさにすると二分音符は小さく感じ、バランスが悪くなるのだ。

作曲家の手書きの総譜を正しく読むのも大切だ。演奏の現場では時間が限られており、時間の浪費につながる楽譜の間違ひは許されない。一方、作曲家の記譜には様々な個性があり、何の音なのかと判断に迷うことがある。記譜の個性を知り、音楽の流れや和声を理解して写譜に臨むと、正しい音が見えてくる。

書くスピードも重要である。今でも思い出すのは、宮川泰さんが「宇宙戦艦ヤマト」のレコーディングで使う楽曲を編曲された時のことだ。仕上がった総譜を私が手にしたのは、音合わせ当日の午前十時ごろだった。十

五曲ほどの劇中音楽を、フルオーケストラで編成で、午後一時に合奏が始まる。私は金パートの写譜を三時間半で終わらせた。作曲家が制作をきりきりまで粘るのはよくあること。写譜職人の腕の見せ所でもある。

演奏家の目と心理解
コンピュータ入力による楽譜の普及などが原因で、近年は写譜職人が減っており、いつの間にか私はベテランと呼ばれるようになった。しかし、まだコンピュータに負ける気はしない。

都内のあるオーケストラから、コンピュータ入力した楽譜を書き直してほしいと頼まれたことが

ある。コンピュータ入力の楽譜は見た目はきれいだ。作曲家にとっでは読みにくい。ケリスがあるのだ。

例えば、一つの小節の中で音符の配列が完全に等分だと、両端が弱風に見える。楽譜が複雑になると、そうした現象が無数に生じる。演奏家の目と心を理解した写譜職人なら、音符の間隔を読みやすいように空けるが、コンピュータではそれが難しい。

写譜にはかけがえのない価値と独自の美学がある。これからも、いい演奏が生まれる喜びを糧に、日々の仕事に励みたい。(やなぎだ・たつろう「写譜職人」)

ソプラノ藤田さんから「楽譜に対する気持ちがちょっと変わるよ!」と推薦記事です。